

原油価格上昇のアジア経済における 産業別価格波及について ～ 日本と韓国の比較 ～

市橋 勝¹・金子 慎治²・金郷民³

報告要旨

本稿は、原油価格の高騰が日韓両国経済にどのような価格波及をもたらすのか、アジア産業連関表2000年版及びSNAデータを用いて分析を行った。アジア域外、域内からそれぞれ供給される原油の価格の上昇がどの程度の他財の価格上昇をもたらすのか、IOの均衡価格モデルによって計算した。また、後半では財別のマクロ需要関数により価格上昇による需要減少効果も測定した。

その結果、原油価格上昇は、日本においては相対的に小さな価格上昇効果であるものの、一旦価格が引きあがると石油、電力の需要が敏感に反応する。これに対し、韓国では逆に多くの財の価格上昇に影響するものの、石油と電力の需要面への減少効果は相対的には小さいという結果を得た。但し、物価面では両国の波及結果は異なるが、需要の落ち込みとしては価格弾力性、補完効果、代替効果を考慮した結果、最終需要や総産出に対して両国とも同程度の減少規模になるということが示された。

Key Words : energy price, induced effect, price model, input-output analysis, demand function, Japan and Korea

¹広島大学大学院国際協力研究科

² 同上

³ 同上